

平成 29 年度 第 2 回岩手山火山防災協議会幹事会 会議録

1 日 時 平成 30 年 2 月 16 日（金）13：00 ～ 14：30

2 場 所 盛岡地域交流センター マリオス 18階 188会議室

3 参集者 別添出席者名簿のとおり

4 次第

1. 開会
2. 幹事長挨拶
3. 議事
 - (1) 岩手山火山防災協議会規約の一部改正について
 - (2) 岩手山火山避難計画策定に係る協議経過について
 - (3) 岩手山噴火警戒レベル等の修正（案）について
 - (4) 岩手山火山避難計画（案）について
 - (5) 岩手山火山防災協議会の今後の取組みについて
4. その他
5. 閉会

5 討議概要

(1) 第 140 回火山噴火予知連絡会について

- ・ 仙台管区气象台より 2 月 14 日実施の第 140 回火山噴火予知連絡会の内容について、報道発表資料により説明。
- ・ 3 月 7 日に第 1 回の会合を開き、検討を始める。観測する側としては難しい課題を突き付けられたが、今後検討していきたい（三浦委員）。

(2) 岩手山火山防災協議会規約の一部改正について

- ・ 資料 1 から資料 3 により事務局から説明。
- ・ 質疑等なし。

(3) 岩手山火山避難計画策定に係る協議経過について

- ・ 資料 4 により事務局から説明。
- ・ 質疑等なし。

(4) 岩手山噴火警戒レベル等の修正（案）について

- ・ 資料 5 及び資料 6 により仙台管区气象台及び事務局から説明。
- ・ 質疑等なし。
- ・ 資料 6 のとおり修正することとする。

(5) 岩手山火山避難計画（案）について

- ・ 資料 7、資料 8 及び資料 9 により齋藤委員及び事務局から説明。

- 資料9について、一部修正あり。
 (「2 計画の主な内容」「第1章 計画の基本的事項」の「噴火警戒レベルにおける避難及び立入規制対象範囲」の表のレベル4及びレベル5の想定される影響範囲について、「大きな噴石」を削除。)
- 説明後、質疑応答。
 (質疑応答内容)
- 資料7の13ページ、表1-6について、噴火警戒レベル4・5の想定される影響範囲のところ、大きな噴石は削除ということでもいいか(幹事長)。
- 削除したい(事務局)。
- 資料8の6ページ、避難対象地区等はいつ時点での数値か(幹事長)。
- 平成29年4月1日時点の数値である(事務局)。
- 資料7の34、35ページについて、火山泥流が流れるすぐ近くに緊急避難場所がある。雪の量が変わると、泥流の想定範囲も変わってくるので、もっと遠くの、より安全な場所を緊急避難場所としたほうがよいのではないかと(浜口委員)。
- 緊急避難場所は各市町村の地域防災計画をもとに、一番近くの避難場所ということで設定した(事務局)。
- 岩手山のハザードマップを作成した際、泥流の範囲がこれで大丈夫かどうかチェックしてもらった。ただ、これ以上の泥流が起きたらどうするのかというのはご指摘のとおり。絶対大丈夫だというものではないので、臨機応変に対応する必要があるというのが、当時の見解であった(齋藤委員)。
- 東日本大震災では大丈夫だといわれていたところが津波にのまれた。ある程度余裕を持ち、安全なところを緊急避難場所として指定するべきではないかと(浜口委員)。
- もっと離れた場所に避難できないか、検討してもらったが、場所がなかった。状況によっては、泥流範囲が広がることもあるので、より高い所に避難するよう、住民に御理解いただくしかない(齋藤委員)。
- 今後、高齢化が加速する。ここに逃げて、また別のところに逃げるとするのは、やめた方がいいのではないかと(浜口委員)。
- そういった問題があるということを住民に周知する際に啓発していきたい(事務局)。
- この避難計画が永久にこのままでいくというわけではない。ご指摘の点は今後の検討事項としたい(齋藤委員)。
- 資料7の87ページ、土砂災害への対応というところは、非常に重要である。降灰後に雨が降り、土砂災害を起こす。範囲が広く、長期に渡る現象である。気象庁が定める噴火警戒レベルの現象の中にこの土砂災害が入っていないが、重要な現象であるので、こういった形で明記した。降灰した場所、雨量を踏まえ、避難対応するしかないが、現実にはなかなか難しいと思うので、土砂災害の対策チームを作り、自治体に助言できる体制を作っている(齋藤委員)。
- 降灰について警察の全国会議に行ってきたので、その時のことを情報提供させていただく。鹿児島県警の情報だが、都市部に1ミリの降灰があるだけでも交通網はまひし、県民が不安になるという。水で流すと排水溝に詰まるので、それはできず、市民に灰を回収する袋を配っているらしい。県は89台もの特殊車両を持っている。警察はいかに迅速に、正確に情報を伝えるか、避難誘導するか、救助救出するかが重要。情報を正確に迅速に伝えれば、1人でも多くの県民を救うことにつながる(岩

手県警察本部)。

- ・ 噴火警戒レベルを引き上げるには高い観測精度が要求される。気象台の観測精度を上げ、資料7の90ページのような風評被害を少なくする必要がある(浜口委員)。
- ・ 七滝登山道の取り扱いは以前の会議でも取り上げたが、どうなったのか(土井委員)。
- ・ 登山道としては利用されている。森林管理局、環境省、自然保護課、総合防災室、八幡平市と今後調整したい。管理者が誰かというのもまだはっきりしていない。今後調整する(自然保護課)。
- ・ 凶面の避難ルートに七滝登山道も入っているが、このまま協議会に諮ることとして良いか(土井委員)。
- ・ ルートとしてはそのまま残したい(自然保護課)。
- ・ 土砂災害について、齋藤委員の言うとおりでいいが、問題は降灰の厚さとどのくらいの浸透能があるのかということである。情報を早く分析し、住民に周知する必要がある(井良沢委員)。
- ・ 今後の計画で検討したい(事務局)。
- ・ 若干計画に修正はあるが、来月の協議会には資料7及び資料8のとおりお諮りしたい(幹事長)。

(6) 岩手山火山防災協議会の今後の取組みについて

- ・ 資料10により事務局から説明。
- ・ 質疑等なし。

(7) その他

- ・ 次回は3月8日(木)に盛岡市勤労福祉会館の大ホールにて岩手山火山防災協議会を開催予定である(事務局)。

以上